

## 題材名「ネチケット」

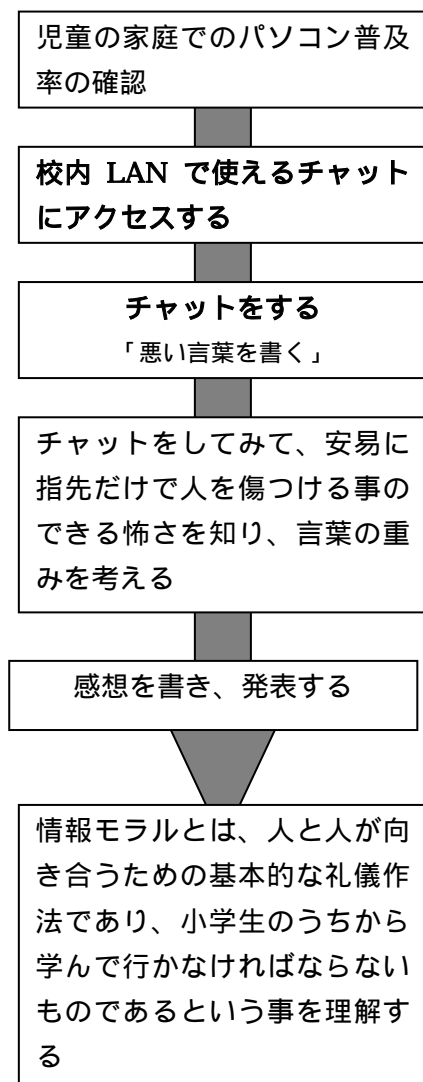
### ねらい

近年、パソコンの普及率が飛躍的に伸び、子どもたちが日常生活の中でパソコンに触れる機会も増えている。インターネットを使えば瞬時に限りない情報を引き出すことは可能だが、それと引き替えに、誤った個人情報の流出、人を誹謗中傷する言葉が簡単に指先だけで出来てしまうのも現状である。そこで、このような落とし穴にはまらないためにも、正しいパソコンの知識を持ち、正しい使い方「ネチケット」を学び情報モラルを考えていく必要がある。

### コンピューターを利用する利点

本校の児童の中には、家でコンピューターを使用してインターネットを利用する事もある。そのため、インターネットの危険性、エチケット等を十分に理解する必要があると考えた。それらの事を理解するためには、実際に自分でインターネットやチャット等を利用して、直に触れる事により理解を深めていく事が一番であると考えた。

### 授業の流れ



### ICT活用場面

校内LANを利用し、チャットをする。チャットをするにあたり、次の基本的な諸注意をする。

- ・チャット中は、絶対に話さない。

次に、チャットの題を発表する。お題は次のような項目にした。「悪い言葉を書いてみて下さい」

この時に、「絶対に個人名を出さない事」を注意する。ある程度、悪い言葉が出たところで、それぞれの書き込みと関連性のある書き込みをして、チャットで会話をするように指示する。

### 成果

実際にLANを利用してチャットをする事によって、言葉で発する分には、中々言えないような言葉でもパソコンを使うと指先だけで安易に言えてしまう怖さを感じることが出来た。また、冗談で言っている言葉と本気で言っている言葉の違いがパソコンの文字だけでは区別がつかないことに気付き、何気ない一言が時に人を傷つけてしまっている事もあると理解出来た。

### 課題

今後、益々、人の顔を見ずに文字だけの会話が増えていく世の中になってくる。そういった中で、他人を気遣い自分を大切にできる心を、より一層育んでいかなければならない。

### ICT活用環境等

使用周辺機器	コンピューター 先生機 1台 児童機 15台
使用ソフト名	Lancaster
使用教室	コンピューター教室

## 道徳学習指導案

題 「情報モラルを考える」

学年 6年

### 1 ねらい

近年、パソコンの普及率が飛躍的に伸び、子どもたちが日常生活の中でパソコンに触れる機会も増えている。

インターネットを使えば瞬時に限らない情報を引き出すことは可能だが、それと引き替えに、誤った個人情報の流出、人を誹謗中傷する言葉が簡単に指先だけで出来てしまうのも現状である。そこで、このような落とし穴にはまらないためにも、正しいパソコンの知識を持ち、正しい使い方「ネチケット」を学び情報モラルを考えていく必要がある。

児童の活動	教師の支援
1 パソコンについての知識を発表する。	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 児童の現在のパソコン普及率を知る。</li><li>・ チャットをしたことがあるかと質問する。</li><li>・ チャットへの入り方を説明する。</li><li>・ チャットをするにあたっての基本的な諸注意をする。<ul style="list-style-type: none"><li>絶対に声を出さない</li><li>隣の人画面を見ない</li></ul></li><li>以上の事を約束させる。</li><li>・ チャットのお題を出す。<ul style="list-style-type: none"><li>「悪い言葉を書いてみて下さい」</li><li>「書き込んだ人は誰だかわかりません」</li></ul></li><li>注意「ただし、絶対に個人名は出さない」</li></ul>
2 実際にチャットを試みる。	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 教師も児童になりすまし、チャットに参加する。</li><li>・ ある程度、悪い言葉が出たところでそれぞれの書き込みと関連性のある書き込みをするように指示する。</li></ul>
3 チャットを試みて、安易に指先だけで人を傷つける事のできる怖さを知り、言葉の重みを考え、発表する。	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 児童に感想を書かせ発表させる。</li></ul>

4 まとめ	・情報モラルとは、人と人が向き合うための基本的な礼儀作法であり、小学生のうちから学んでいかなければならないものであるということを伝える。
-------	--

## 2 まとめ

言葉で発する分には、なかなか言えない言葉でもパソコンを使うと指先だけで安易に言えてしまう。また、冗談で言っている言葉と本気で言っている言葉の違いがパソコンでの文字だけでは区別がつかない。つまり、相手の顔の見える状態で言葉を言われた時と文字だけで言われた場合の「言葉の重み」が違うのである。

今後、益々、人の顔を見ずに文字だけの会話が増えていく世の中になってくる。そういった中で、他人を気遣い自分を大切にできる心を小学生のうちから育てていく必要がある。

## 3 児童の感想

授業を終えて

- ・ チャットで色々な悪い言葉を書きました。他の人が書いてあることを読んだら嫌な気持ちになりました。
- ・ チャットで知らない人に傷つくことを書いてはいけないと思った。
- ・ 悪い言葉は自分の事を言われているのではないかと、とても嫌な気持ちになった。
- ・ 色々な言葉が出てきました。でも誰に言っているのか分からなかった。自分の事もかもしれないと思ったら嫌な気持ちになった。
- ・ 「死ね」とか書いてあって、こういうのでネットの事件が起こるんだと思いました。
- ・ インターネットでチャットをいろんな人と出来るなんてビックリしました。でも、顔も見えない人とするなんて少し怖いと思いました。
- ・ チャットをしたことが無く、あまり分からない事もあったけどあまり悪い言葉は書きたくないと思いました。もっと楽しい事を書きたいと思いました。

ネットでの「言葉の重み」について

- ・ 普通に喋っているときは、アホとか言われてもあんまり嫌じゃないと思うけど、ネットに書いてあると嫌だと思いました。
- ・ もし自分の事が書かれていたらと思ったら心配になります。
- ・ 悪口は言う方は気持ち良いけど、悪口を言われたら気持ち良くないです。言われた方が言葉の重みがよく分かります。
- ・ 冗談に聞こえなくて言葉が重く怖いと思った。
- ・ 普段、喋っている時には、冗談なんだなと思うけど、文字で書かれると真面目に言われている感じで嫌だった。
- ・ 人の名前、悪口を書いてはいけないことが良く分かった。